<table>
<tr><td colspan="3">テキライグシ利用によるブドウ「ルーベルマスカット」の省力的果房管理技術</td></tr>
<tr><td colspan="3">［要約］欧州系ブドウ「ルーベルマスカット」の種なし栽培において、テキライグシにより摘蕾を行うと、摘蕾と摘粒を合わせた果房管理作業時間は、慣行に対し約50%の省力となり、慣行と同等の果実品質が得られる。</td></tr>
<tr><td>茨城県農業総合センター園芸研究所</td><td>成果区分</td><td>技術参考</td></tr>
</table>

１．背景・ねらい

本県のブドウ経営は、観光直売型で営まれ、「巨峰」が主力品種となっているが、消費者の嗜好が変化し、「巨峰」とは異なる食味の品種や、食べやすさから種なしブドウに対する需要も大きくなってきている。しかし、ジベレリン処理による種なし栽培は、着粒数が多く摘粒に労力がかかるため、省力的果房管理技術が求められている。

そこで、食味は良いが着粒数が多く摘粒に労力がかかることが課題になっている、欧州系ブドウ「ルーベルマスカット」のテキライグシによる果房管理作業の省力化について検討する。

２．成果の内容・特徴

１）根域制限し短梢せん定栽培している欧州系ブドウ「ルーベルマスカット」を供試し、房先５枚で摘心を行った。種なしにするため、満開期にストレプトマイシン 200ppm 加用ジベレリン 25ppm 及び満開 10 日後にジベレリン 25ppm を花(果)房浸漬した。

２）テキライグシ（J 製）で満開 19 日前に花穂先端約５cm を８回ブラッシングして摘蕾を行い（図１）、摘蕾時間とその後の摘粒に要した時間を測定した。

３）テキライグシを使用してかかった摘蕾時間は、１房当たり約 9.3 秒で、3000 房／10ａの場合、7.7hr／10ａである（図２）。

４）摘粒時間は、テキライグシを使用した房が１房当たり約 51.5 秒で、慣行が１房当たり 120.6 秒である。

５）摘蕾と摘粒を合わせた果房管理作業時間の合計は、3000 房／10ａの場合、慣行が 100.5hr／10ａ、テキライグシを使用した場合は 50.7hr／10ａで、49.8hr／10ａ削減でき、約 50%の省力となる（図２）。

６）テキライグシを使用して摘蕾を行った房の果実品質は、慣行と同等である（表１）。

３．成果の活用面・留意点

１）生育ステージによって花蕾の取れやすさが異なるため、使用に当たっては注意を要する。

２）欧州系２倍体品種に対するジベレリン処理については、平成 18 年 2 月 22 日、適用拡大登録。

４．具体的データ

図１．「テキライグシ」による摘蕾

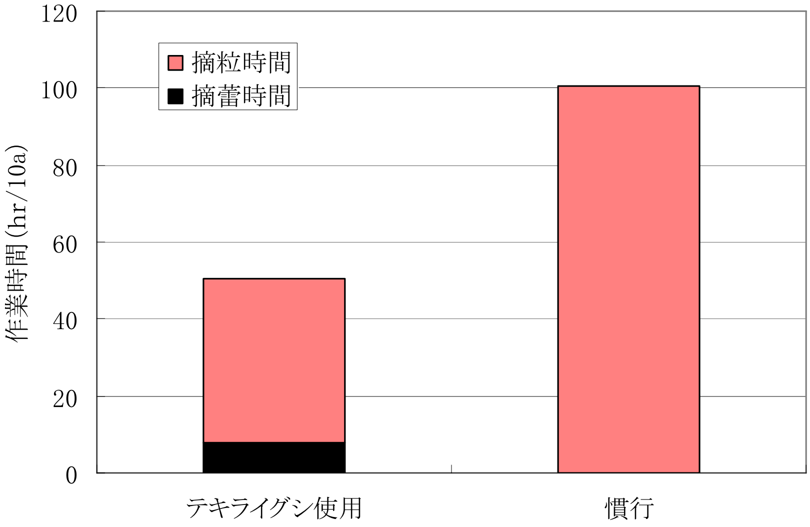

図２．摘蕾が果房管理作業時間に及ぼす影響

表1. 摘蕾が「ルーベルマスカット」の果実品質に及ぼす影響

果房管理方法	房重 (g)	粒重 (g)	含核数	縮果症粒率 (%)	糖度 (Brix%)	酸含量 (g/100ml)
テキライグシ使用	619	12.3	0.0	8.4	18.0	0.34
慣行	604	12.9	0.0	5.9	18.2	0.28
t検定	n.s	n.s	n.s	n.s	―	―

注)n.s:有意差なし。

５．試験課題名・試験期間・担当研究室

施設ブドウの根域制限による多品種栽培技術の確立・平成 16～20 年度・果樹研究室